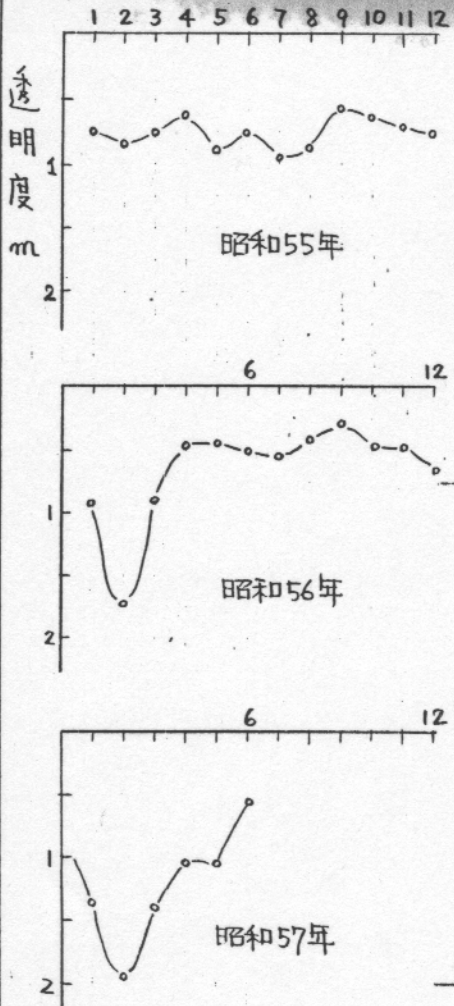


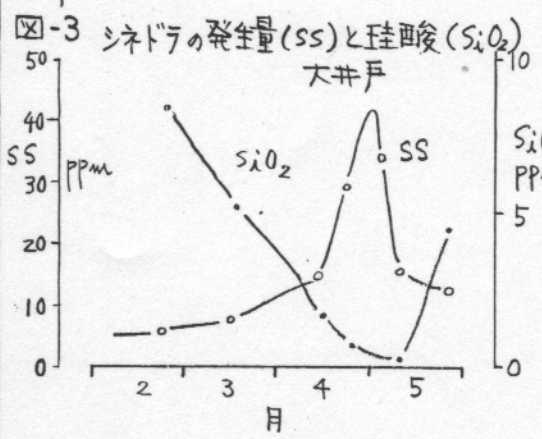
今年の水質

冬期間の透明度は2mと高い値を示しており、水質の悪い年に発生する緑藻のクロステリウムも認められなかったことは幸いです。2月のCODは3ppm前後でしたから霞ヶ浦の水質を環境基準(A類型)にするためには、透明度で2m前後を維持しなければなら

図-1 霞ヶ浦透明度の変化 (6地卓平均)



ないミトになります。3月になると急に透明度が低下し水色は茶褐色となりました。これは珪藻のシネドラが大量発生したためです。北浦での発生量は欠測のため不明ですが、霞ヶ浦での発生量を図2に示しました。高投入で多く4月下旬には1ccの中に20個までになりました。例年珪藻が湖奥部で大量に発生しますが、この様に広い範囲で発生したことは初めてのことで、5月下旬にはシネドラ



が消失し軽度の水変りを起したと思われます。行方地方で5月13日ミウ張網で魚が大量に獲れた原因はこの水変りによる可能性ががあります。シネドラの増殖に伴って水中の無機態のN:Pの減少と珪藻の増殖に必要なSiO₂の極度の減少が観測されました(図3)。SiO₂の減少は最近霞ヶ浦で認められる特徴の一つで、富栄養化の解明

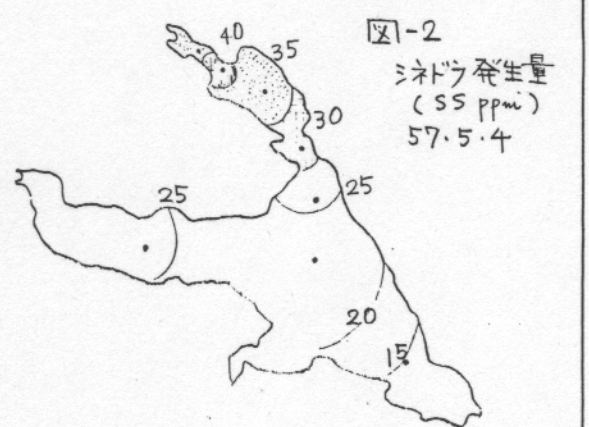
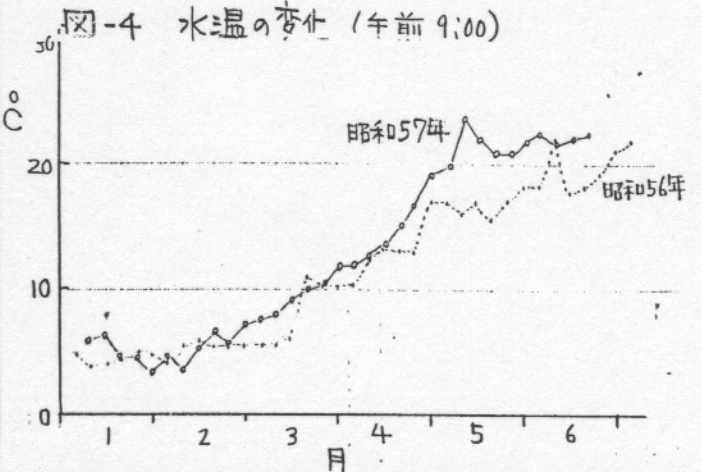
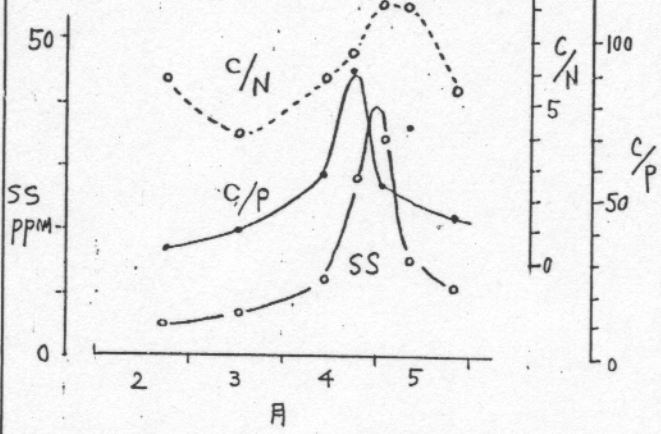


図-5 SS中の炭素(C)窒素(N)燐(P)の組成変化



の系口になるものと考えられます。
 今回のシネドラの発生は水温の上昇(図-4)により始まりプランクトンの組成変化からみて(図-5)燐が不足し活性を失い消失したものと思われますが、とにかく、肥料分である窒素、燐の負荷量も削減しなければこの様な植物プランクトン

の異常発生を防ぐことはできません。

綱リけす養殖

6月中旬から霞ヶ浦でアサベナが発生し始めた。



ニニエ年ほど6月下旬ごろに起る水変りが5月中旬にあり夏型プランクトンが早々と出現したもので、天候次第でアオコとともに異常発生しますが、今年冬期の水質算も考慮し昭和48年や昭和49年などの水質悪化年にみられたようなアオコの発生はなっていない。

たアオコの発生は梅雨明け前後に認められる無酸素水塊の大きさと期間が重要な要因と考えられるため7月中旬まで

注意が必要です。

又最近には霞ヶ浦の高決入土浦入など地域により植物プランクトンの発生量に差がありますので、酸素条件など参考として給餌管理等行なうて下さい。

酸欠観測は例年と同じ方法で観測を実施します。

酸欠情報は内水試(TEL 02995-0324)に電話して下さい。

DOモニター設置は前年と同じ場所です(表1)

地域差の大きい酸素条件を把握するために利用して下さい。

図-6に昨年土浦入(房中)土浦で酸欠事故があったときの酸素量の変化を示しました。(沢田光三氏観測データ)

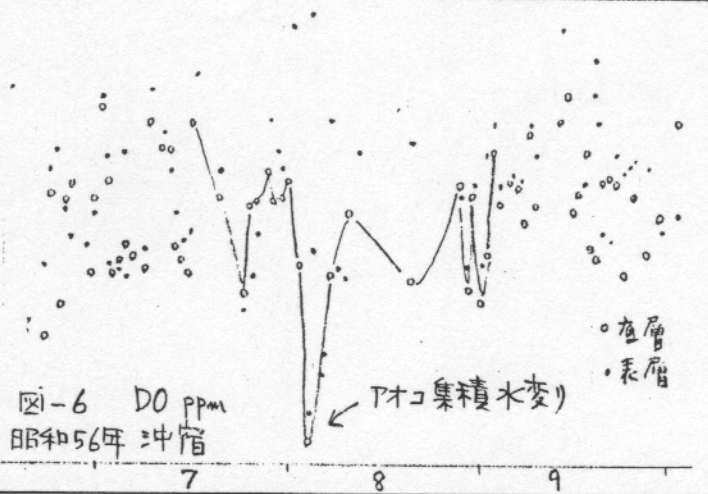


図-6 DO PPM 昭和56年 沖宿

氏名	組合名
戸島 武男	大井村
菅谷 輝三	"
鳥次 耕市	北浦村
原田 理三郎	田余
樺木 光一郎	新治玉川
沢田 光三	土浦一
桜井 謙治	出島村
樽見 二郎	玉造町
竹石 毅平	行方

表-1 DOモニター設置場所 敬称略